

# MULTI-CYCLE & INTERPLAY - 文化的な宇都宮へ

ライトレールに乗ってまちへ出てみると、河原の音が聞こえてきた。それは楽器の音でもあり、川で遊ぶ子供の声でもあった。私はそんな音に引き込まれるように、気付いたらライトレールを降りていた。

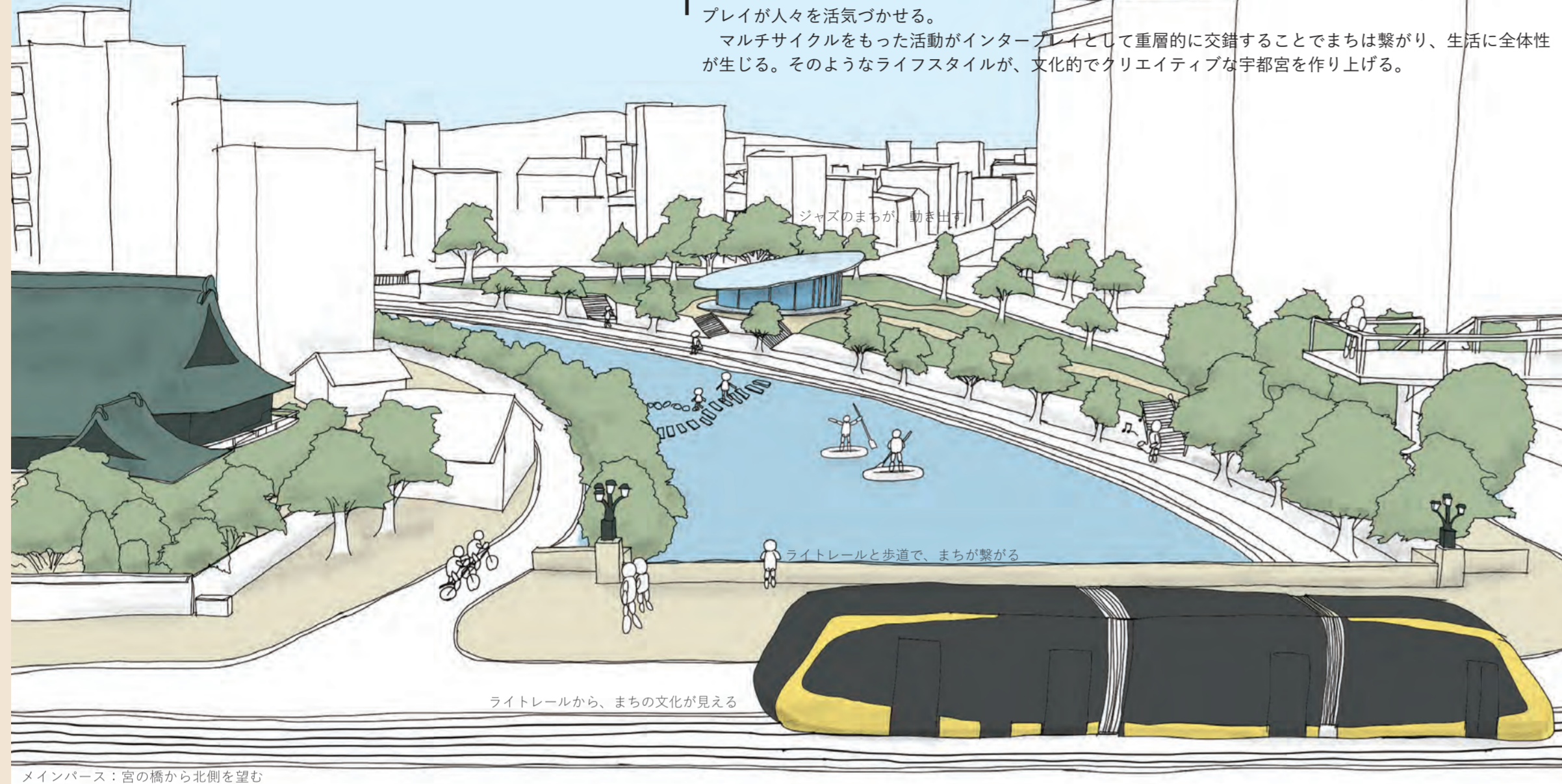
この町の美しい風景を挙げるとすれば、ライトレールと大通りの風景、田川と公園の風景、そして、充実した日の帰り道である、今日のように。

**宇都宮人のマルチサイクル・インタープレイ**

「まち」という言葉が人の集合体である社会を指すのであれば、都市空間の提案は、人間のライフスタイルの提案であるべきである。

価値観が多様化した現在、人は単に休日に消費者となるために働くのではなく、自らの楽しみとして何かを創造していくマルチロールなライフスタイル、さらにはその過程で出会った人々と交流する当意即妙のインタープレイが人々を活気づかせる。

マルチサイクルをもった活動がインタープレイとして重層的に交錯することでまちは繋がり、生活に全体性が生じる。そのようなライフスタイルが、文化的でクリエイティブな宇都宮を作り上げる。

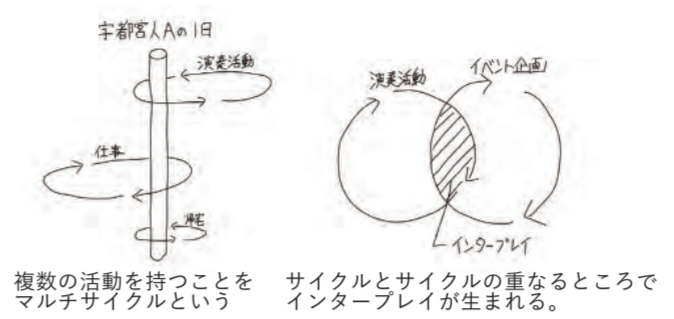


メインパース：宮の橋から北側を望む

## Theme - マルチサイクルの共鳴

### マルチサイクルのインタープレイって何？

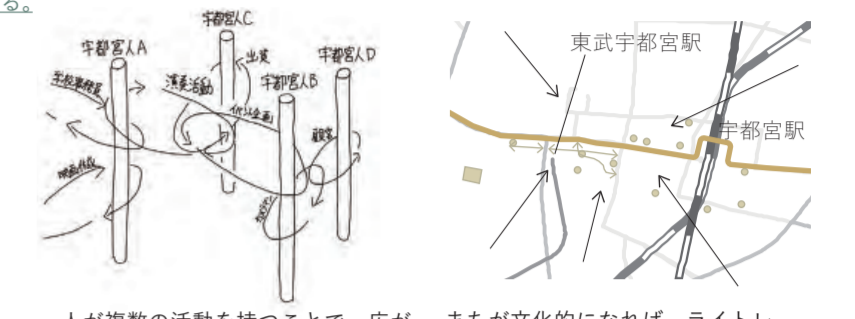
マルチサイクルとは、一人の人間が一つの活動ではなく、1日に複数の活動を持つことである。たとえば、仕事終わりに音楽演奏を聴きに行ったり、演奏活動を行ったりすることが挙げられる。インタープレイとはサイクルとサイクルが活動を通して交錯し、共鳴し合うことを言う。



複数の活動を持つことをマルチサイクルという。サイクルとサイクルの重なるところでインタープレイが生まれる。

### こんな良いことが起こる

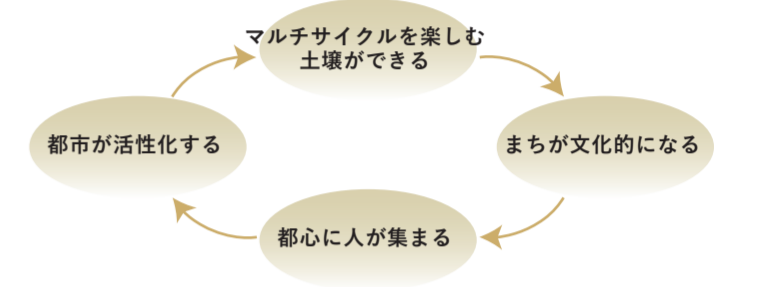
①仕事のアフターアワーズでは文化的活動を行うことで、市民の well-being が上がり、宇都宮の文化が生まれる。②創作活動やイベント企画を通して他分野の人々と交流することで、業種に縛られないネットワークができ、新たな創造性が生まれる。③ライトレールにより沿線では①、②のような活動が促進され、沿線に新たな住居スポットが生じ都市が活性化される。



### まちがこう変わる

ライトレール沿線に文化的な人が集まることにより、まちが変わる。沿線に住めば仕事終わりに別のサイクルを楽しむことができる。車での移動でないため、飲み屋街やバーで自分以外の活動者と知り合うことができる。そのようなゆとりを持ったまちにクリエイティブな人材が集まり、都市が成長する。そうしてクリエイティブな人材が集まり、都市が活性化される。

また人が集まれば都市施設も充実し、若者も集まる。ゆくゆくは若者は子育て世代となり、新たなロールを担いながらより大きなサイクルを描いていく。



## Analyse - 分析

### マルチサイクルの種

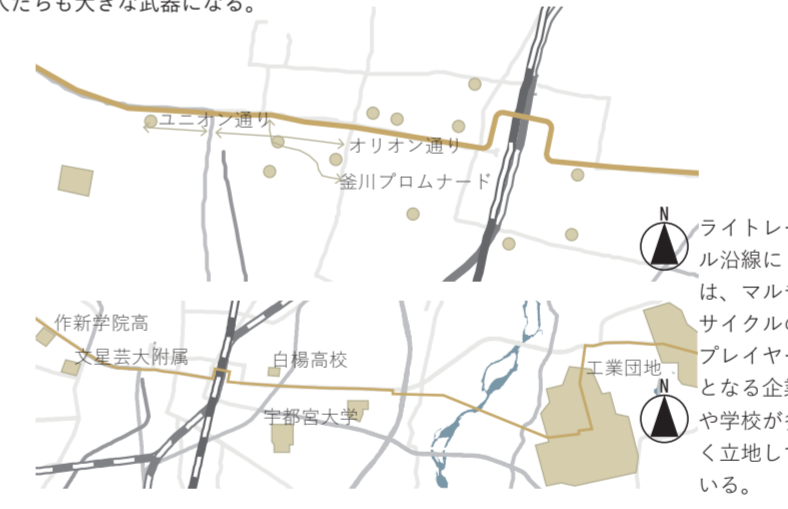
宇都宮の芸能・芸術活動は兼業である場合が多い（ジャズアーティストや俳優・モデル等）。宇都宮はマルチサイクルの土壌があると見える。

こうした活動の第一ターゲットとして沿線の学生・通勤者を挙げる。清原工業団地や芳賀の工業団地には日本を代表する大企業があり、機能を生かした活動もできる。宇都宮大学や共和大学、文星芸大、専門学校、高校も多数立地しており、学生を交えた活動が期待できる。その他、オリオン通り・釜川プロムナード等の商店街の人たちも大きな武器になる。

### インタープレイの種

宇都宮は年間 378 回のイベントが行われるほどのイベント文化のまちである。イベントではジャズ演奏や飲食販売が行われ、大学生、高校生や大企業従業員などの外来者、地元店の飲食店などが一緒になってイベントを運営している。

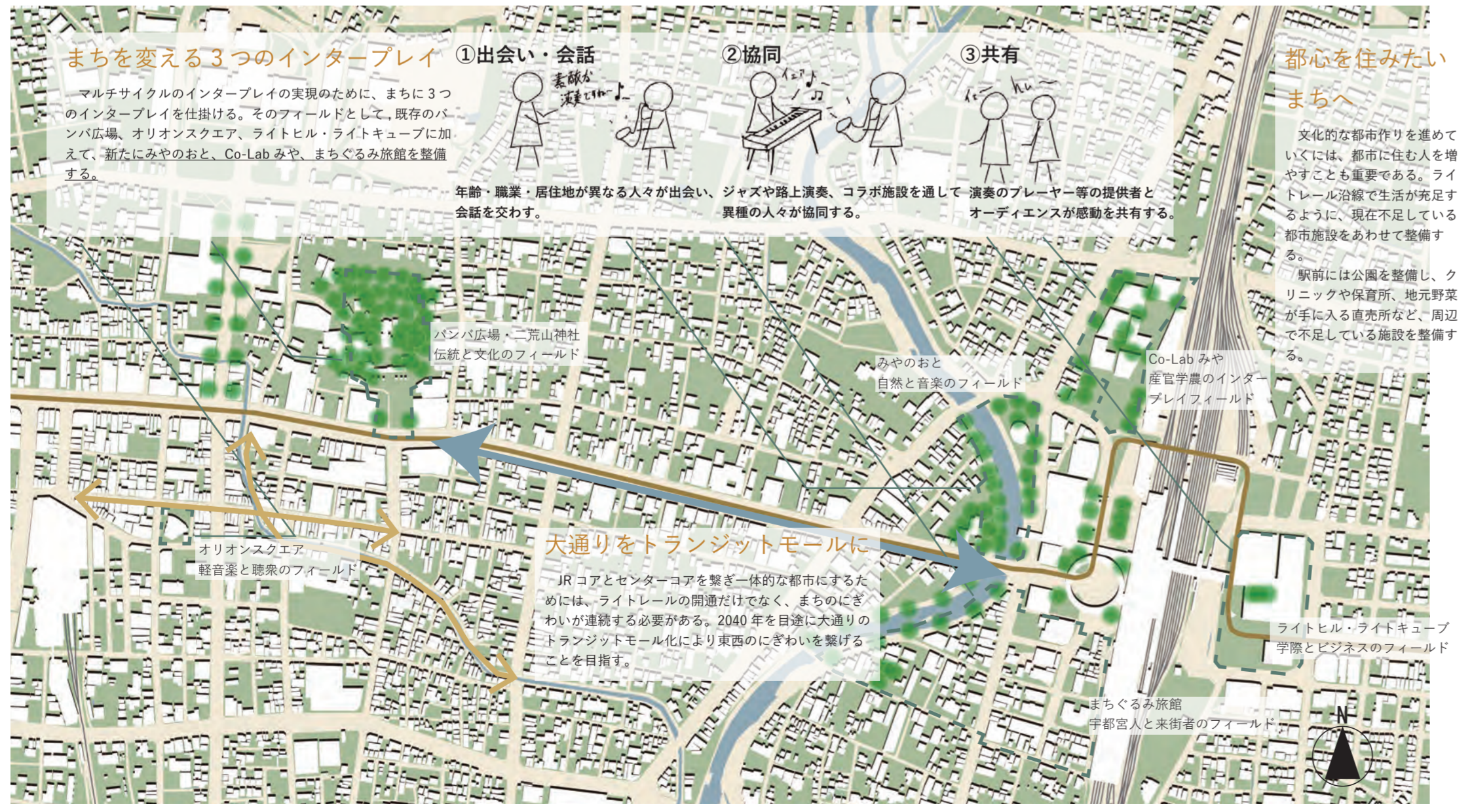
こうした活動の中心は二荒山神社前のパン広場やオリオンスクエアである。一方で、ライトレール沿線一帯を文化のまちに押し上げるには、JR コアにも、別の種を仕掛ける必要がある。



▼オリオンスクエア・パン広場でのイベント開催回数 「第3期宇都宮市中心市街地活性化基本計画」より

年度	イベント開催回数
平成28年	323回
平成29年	333回
平成30年	378回

## Full Score - 総合計画



### 宇都宮ライトレールで、副次的な活動が生まれる

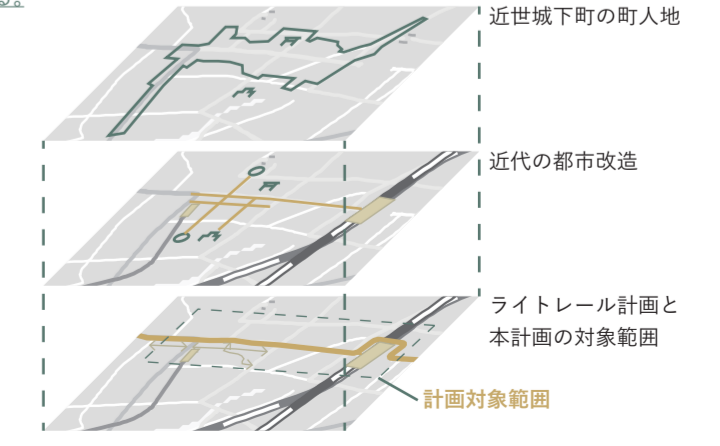
ライトレール中心の生活に変われば、目的地と居住地を往復するだけの生活が変わる。ライトレールに乗って移動すれば、ふとした瞬間に、まちなかの風景が目に入りやすくなる。「仕事帰りにちょっと寄ってみる」「休憩がてらまちをふらつく」といった副次的な活動が生まれやすくなる。



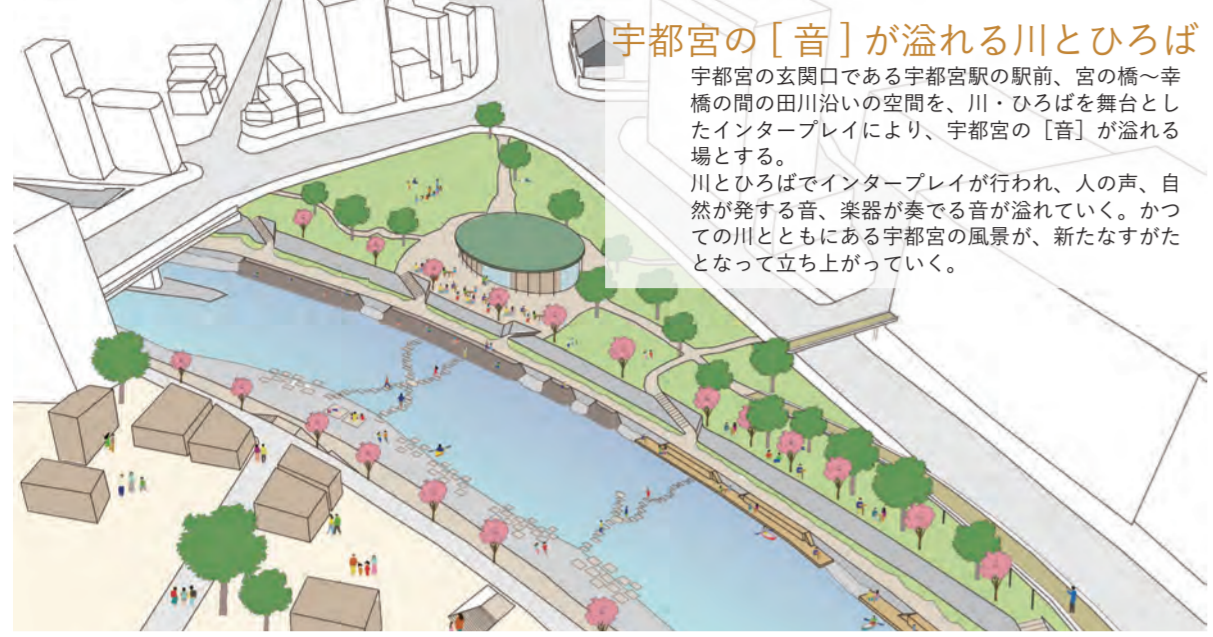
ライトレールの移動なら、移動の中でまちなかに触れられる。「美しい風景を目にした」「仕事帰りにちょっと寄ってみた」が生まれる。

### 宇都宮の都市構造

宇都宮のまちの起源は二荒山神社の門前町であり、その後改造を加える形で近世城下町として成立した。近代には屈曲した街路を整理し、井桁の都市骨格と呼ばれる近代都市計画を完成させた。そして将来は大通りにライトレールが通る。本計画では、取り組みの範囲を①徒歩圏に収まる範囲②ライトレールのルートから考えた。旧城下町の範囲（徒歩の範囲）とライトレールのルートとを踏まえ、東武宇都宮駅～宇都宮駅区間のライトレール沿線を計画のフォーカスポイントとする。



# MIYA NO-OTO (みやのおと) - 新たな宇都宮のシンボル



### 宇都宮の「音」が溢れる川とひろば

宇都宮の玄関口である宇都宮駅の駅前、宮の橋〜幸橋の間の田川沿いの空間を、川・ひろばを舞台としたインタープレイにより、宇都宮の「音」が溢れる場とする。

川とひろばでインタープレイが行われ、人の声、自然が発する音、楽器が奏でる音が溢れていく。かつての川とともにある宇都宮の風景が、新たなすがたとなって立ち上がっていく。

### Jazz Club MIYA NO-OTO

「ジャズのまち宇都宮」の玄関口である宇都宮駅の駅前に、世界的なジャズプレイヤーも招待できるようなジャズクラブを整備する。

ジャズクラブに併設されるダイニングは、ジャズを鑑賞しながらだけではなく、川辺に面したテラスでも楽しむことができる。

出合い	ジャズファン・初めてジャズを鑑賞した人どうしが、余韻に浸りながら語り合う
会話	世界的ジャズプレイヤーと宇都宮のジャズプレイヤーがセッション
共有	セッションによって奏でられるハーモニー、感動をプレイヤーと聴衆で共有

## インタープレイの場としての田川

田川は、宇都宮の玄関口である宇都宮駅の駅前に位置する貴重なオープンスペースである。地域内外から来る人を受け入れ、インタープレイの起こる場として整備する。宮の橋下流部にある可動堰により、田川の水位は変化する。水位変化に合わせて、田川での使われ方が変化する。



## みやのおと水辺の庭

人々が田川の自然と文化に触れる場として、「みやのおと水辺の庭」を整備する。田川で獲った生き物や植物を、右岸に設置する水辺学校で観察する。田川で釣った黄色の鮒がルーツである工芸品「黄鮒」を製造・販売する工房で、黄鮒を製作体験して宇都宮の文化に触れる。田川で獲れた鮒を、まち側の飲食店で堪能する。

出合い	田川の自然と文化に触れる子ども・地域の物知り・技術を持つ人などが交流
会話	川好きの人たちが集まり、ワークショップやイベントを開催
共有	田川の生き物や自然を通して、川の恵みや文化を地域の人・外から来た人が認知・共有

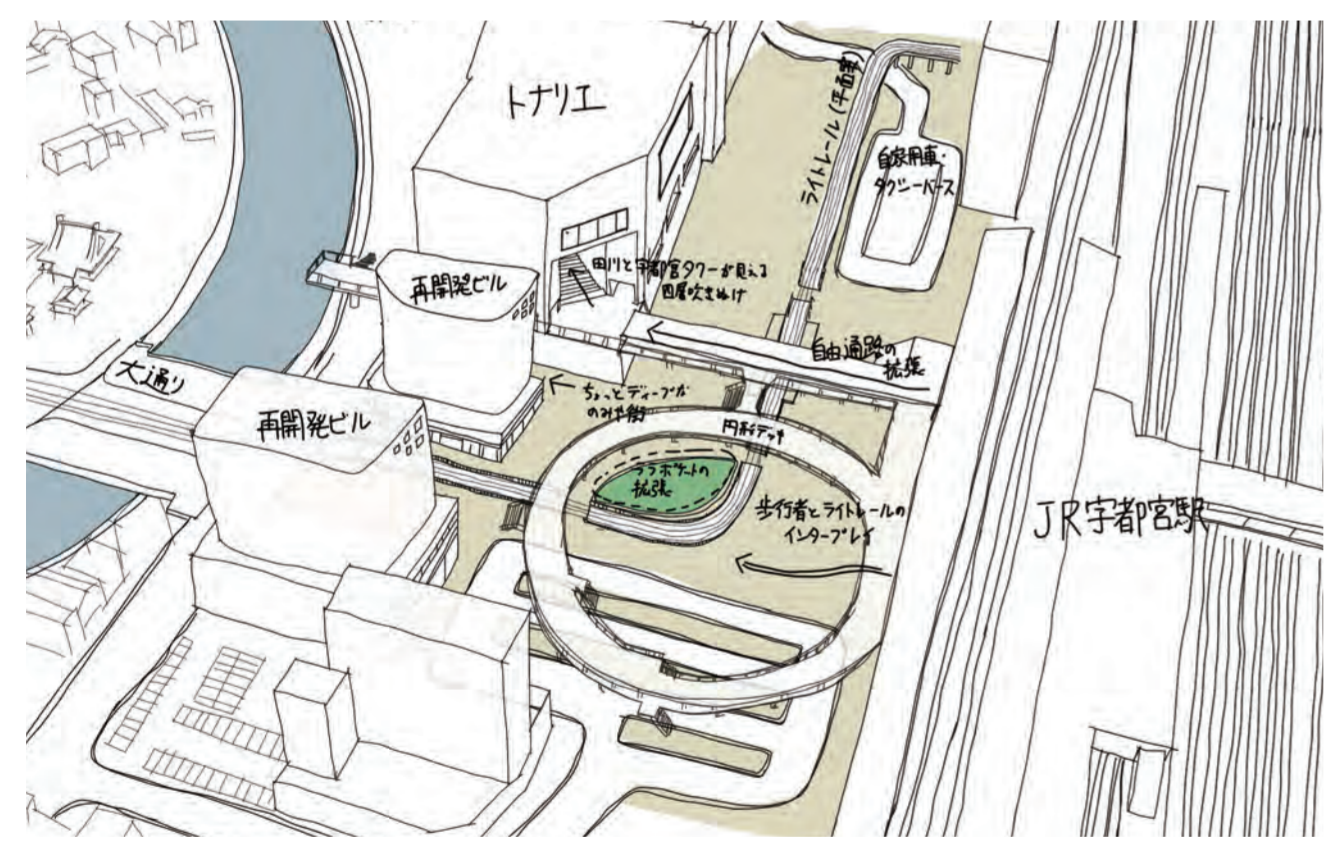


## 整備・運営

かわまちづくり支援制度を活用し、県・市・民間が連携してソフト・ハードの整備・運営を行う。

栃木県	新水島 河川整備（ハード）かわまちづくり計画作成
宇都宮市	河川整備（ハード＆ソフト）かわまちづくり計画作成
市民団体	「TAGAWA LOVERS」田川が好きなおとなたちが集まる市民の任意団体
民間	「みやのおと水辺の庭」の推進 水辺の底の収益施設と、MIYA NO-OTO 全体でのイベントが資金源

# 駅前広場整備 - 人とライトレール中心の交通拠点



## 大通りの歩行空間の拡張

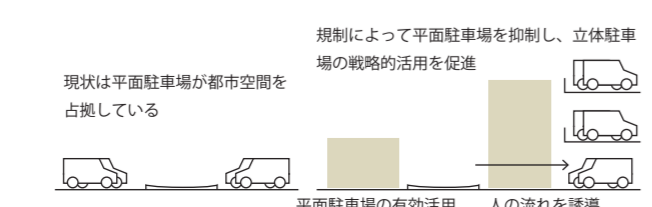
センターコアとJRコアを大通りで繋ぎ、一つのまちとして発展させるためには、ライトレールに加えてにぎわいを繋ぐ歩行空間も重要である。まずは上河原〜駅前をライトレール導入に合わせ、重線化・歩道拡張し、まちづくり実験区間とする。実験区間の結果を踏まえ、2040年の大通り完全トランジットモール化を目指す。



## 平面駐車場の抑制と戦略的活用

今後策定予定の「西口周辺地区整備基本構想」の中で、「対象地内（西口周辺地区）の有料駐車場は許可を受けたものに限り」と定め、収益に応じて今後設立する協議会へマージンを支払うこととする。この施策により下記が実現する。

- ① 駅前周辺地区の平面駐車場を抑制できる
- ② 駐車場からのマージンで、駅周辺空間の高質化を図ることができる。
- ③ 駐車場の希少価値が上がるので、事業者は駐車場を戦略的に使うことができる。

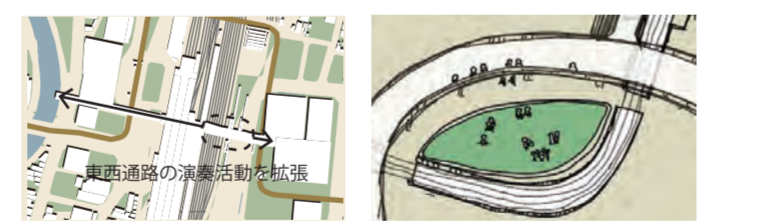


## 大通りを宇都宮の中心に据える。

駅を降りてまず目に入るのは、大きな円形のペDESTリアンデッキに囲まれた、地上の人間とライトレールの空間である。そしてその奥には大通りが繋がる。この景観は、ライトレールと歩行者中心のまちを作り上げていく宇都宮のシンボルとなる。

## 駅前のインタープレイ

宇都宮駅の東西自由道路の風景と云えば、路上ライブである。夕方になると、プロアマ問わず多くのアーティストが東西自由道路で演奏を始める。この自由道路を拡張整備して田川まで接続することで、この風景を東は宇都宮テラス、西は田川沿川まで拡張する。また、現在トナリエの前面で行われている路上ステージ「ララボケット」を駅前広場に移植する。駅前にイベント性をもたす。



## 駅前空間を歩行者とライトレール中心に

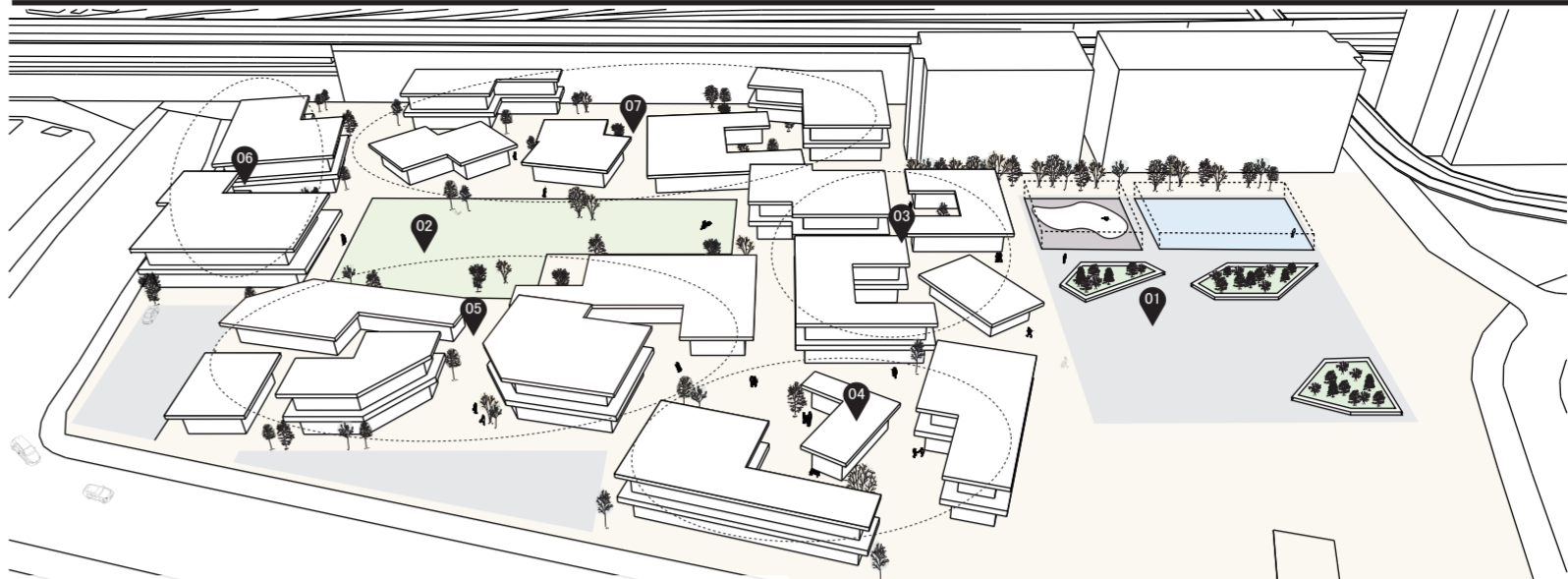
駅前空間へのライトレール導入に合わせて、自動車中心となっている現在の駅前空間を再配分し、ライトレールと歩行者中心の空間を中心に据える。



## 取り組みの推進体制

JR 宇都宮駅前商店街、トナリエ（日本エスコ）、JR 東日本からなる「JR 西口駅連絡会」を設立。第一期整備は行政主導で進め、第二期整備は連絡会、宇都宮市、大学有識者と再開発事業協議会らによる駅前協議会主導で進める。

# Co-Lab 宮 - 産官学農の交流拠点

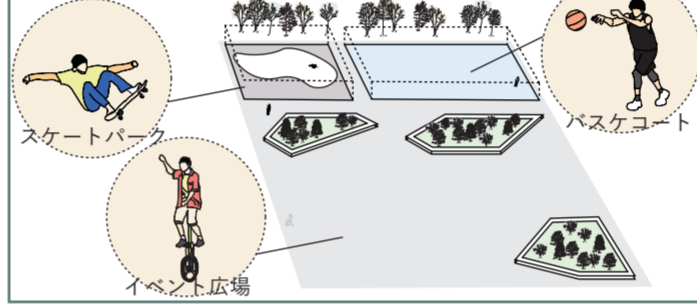


## 宇都宮の「技」と「趣」のインタープレイ拠点

宇都宮駅北部エリアの大規模な空き地を、宇都宮の産官学農がコラボする、インタープレイの拠点とする。宇都宮人の「技」と「趣」が巻き起こすインタープレイにより、宇都宮に日常とイノベーションが生まれる。

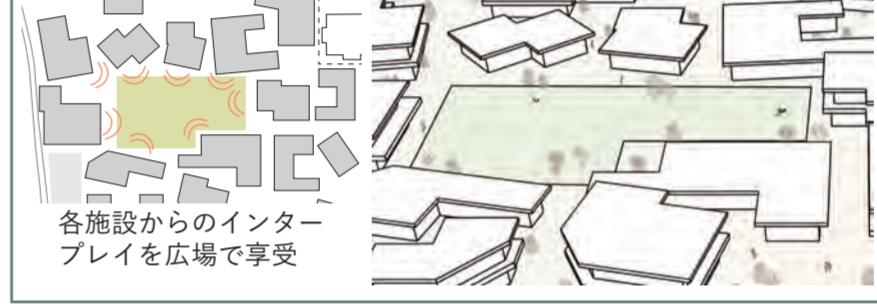
## Co-Lab Square

Co-Lab 宮の玄関口として、また LRT からの車窓風景として、エントランス性の高い広場を整備する。スケートパークやバスケットコート、他、イベント時にも利用可能な空間構成としている。



## 中央広場

Co-Lab 宮の中央に位置する中央広場は多くの施設に囲われており、各施設内の活動を見渡すことができる。日常的には芝生の上でゆったりくつろぐことができ、時には各施設内の活動を受容する空間となる。



## Co-Lab 宮 1号館（飲食館）

Co-Lab 宮 1号館は地元食材をその場で楽しむことができる飲食館とする。マーケット棟では、地元農家と地元レストランシェフ、調理専門学生による創作料理が楽しめる。コミュニティキッチンでは、生鮮食品店で購入した食材をその場で調理可能だ。

## Co-Lab 宮 2号館（行政分室）

Co-Lab 宮 2号館は宇都宮市の行政分室を配置する。まちづくり系、交通系、住宅系、観光系など、宇都宮での暮らしの相談役となる。

出合い	宇都宮の食と出合い、人と出会う食育活動としての会話が生まれる
会話	地元農家・調理専門学生等の協同による料理の提供
共有	宇都宮の食の豊かさや美味しさ、技術力の高さをその場で共有

## Co-Lab 宮 5号館（オフィス館）

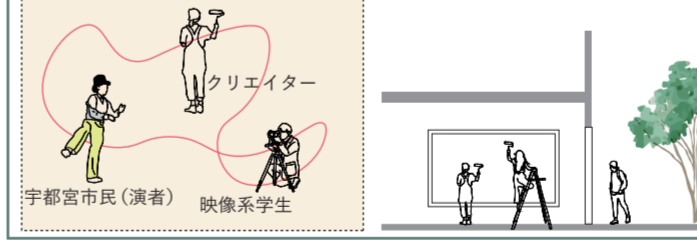
Co-Lab 宮 5号館は地元企業等への貸しオフィスのやワークスペースとして整備する。昼時には、中央広場にキッチンカーをよび、多くのワーカーで賑わう。

## Co-Lab 宮 4号館（クリエイティブ館）

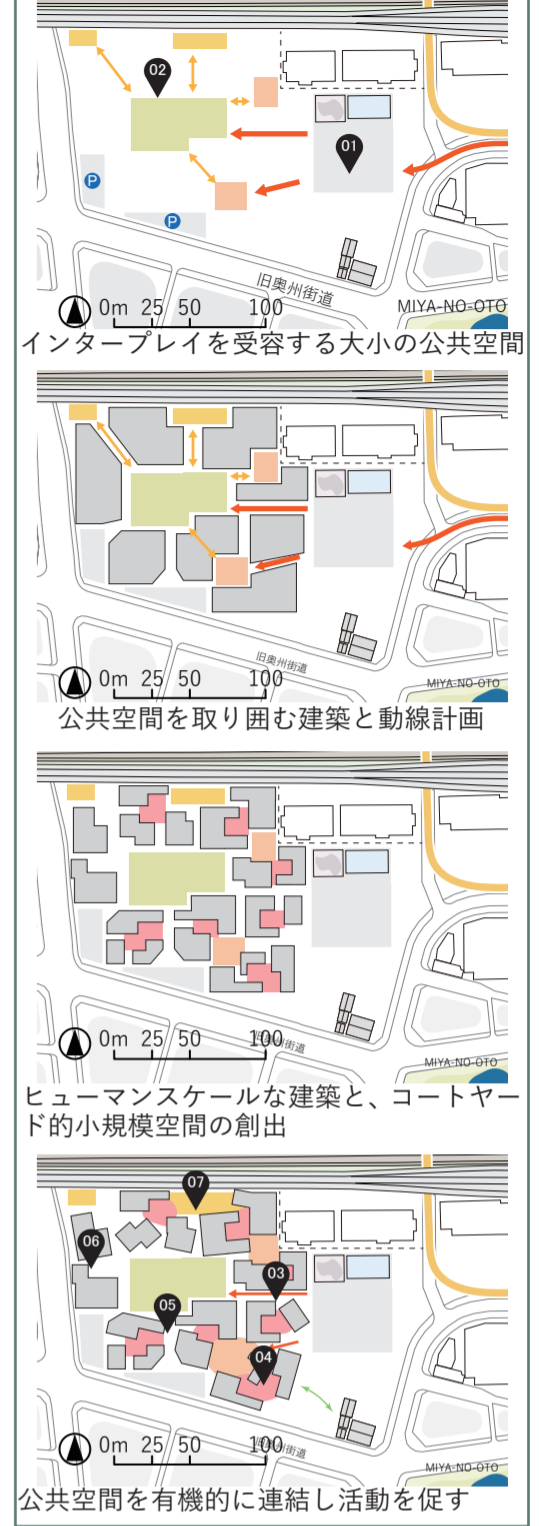
Co-Lab 宮 4号館は宇都宮市内の専門学生やアーティスト等の他、ワークスペース、及び発表の場として整備する。音を鳴らす、物を作る、絵を描く、演じる、撮影する、展示する、上映する等、すべてのクリエイティブな活動を支援する。もちろん趣味レベルでの参加も可能だ。

## Co-Lab 宮 3号館（Lab 館）

Co-Lab 宮 3号館は地元企業、大学や専門学校のサテライト研究室として整備する。特に、地元飲食系企業と地元農家、医療系学生等とのコラボや工業系企業と専門学生等とのコラボによるイノベーションの場となる。



## 施設配置計画



## 整備・運営のスキーム

行政主導で用地買収を行い、企業協賛と行政補助金で施設整備を行う。地元や周辺企業と公共の協働プラットフォームとして、Co-Lab 宮パートナークラブを組織し、官民連携による運営を行う。運営費はコラボ企業による協賛や施設利用料を想定する。

公共	施設の整備、及び公共で管理することが望ましい施設（行政分室等）の維持管理を行う
民間	施設利用料を運営費用とし、施設の運営及び維持管理を行う

# 宇都宮まちぐるみ旅館 - 宇都宮人も泊まってみる

## 宇都宮人も、宿泊を楽しむ

宇都宮駅西口周辺地区の南部にはビジネスホテルが多く建てられており、出張で宇都宮に来た方が主に利用しているが、当然ながら、宇都宮に住んでいる方の宿泊は少ない。そこで、既存のホテルを活用し、周辺施設と連携し新たな宇都宮人をターゲットとした「宇都宮まちぐるみ旅館」を提案する。見つけたまちなかでも、泊まってみると景色が変わって見える。



## 川床テラス

田川沿いの歩道空間の広い区間を利用して、各ホテルがテラス空間を整備できる空間を用意する。

## 石蔵 Bar

まちなかを過ごした最後の時間を、石蔵 Bar で語ろう。石蔵 Bar はホテル利用者が出来る専用空間であり、出張や旅行に来た

## 川が見えるサウナ

ホテルと提携するサウナを、田川沿いの空き地に設ける。ここでは田川を見ながらサウナを楽しむことができ、普段見ている田川を違った視点で見ることができる。

## 取り組みの推進体制

周辺のホテル業者で「宇都宮まちぐるみ旅館協会」を設立。河川占有や、石蔵 Bar、サウナの事業者選定において協力し進める。

